

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	神戸市立のぼら学園		
○保護者評価実施期間	2024年10月2日		～ 2024年10月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	64	(回答者数) 51
○従業者評価実施期間	2024年10月2日		～ 2024年10月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月2日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域の中核的役割を担う機関として、地域全体で障害児に提供する支援の質を高めようとしていること。	地域の事業所等を対象に、公開療育や実習などで、視覚支援の方法や関わり方などを知ってもらい、助言を行っている。	さらに障害児の支援体制の強化を図るため、関係機関へのアプローチを行う。
2	多職種との連携を図りながら、個々のこどもの状態に応じたきめ細やかな療育を行っていること。	長年の経験を活かした保育士等の専門性に加え、看護師や調理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士等、多職種との連携を図りながら、専門的な助言や関わりのアドバイスを活かし、視覚支援などこどもの特性に応じた人的、物的環境を整えた療育を行っている。	より多職種との連携を図り、チームとして、こどもの発達状況や課題について検討等を行い、さらにより良い療育を行っていく。
3	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保していること。	施設内研修や外部施設への実習を実施するとともに、他団体が主催する研修を受講する機会を設けている。また、地域の事業所等との事例検討会を行い、お互いの資質向上に努めている。	さらなる職員の資質向上のため、施設内研修や外部研修のほか、関係機関と事例検討会等を積極的に行い、具体的な支援方法の共有を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中核的役割を担う機関として、地域全体で障害児に提供する支援の質を高める強みはあるが、地域障害児支援体制強化事業について、取り組み始めたところなので実施回数が少ない。	今年度は顔の見える関係づくりの構築を目指しているところであるため、支援者支援の実施については、今後積み重ねていく。	公開療育や事例検討会等、地域の障害児通所施設等に現在実施している支援を基本に、対象事業所を広げていく。
2	HPでの情報発信が少ない。	れんらくー等を活用し、情報発信を行っている。内容等を今後検討していく。	引継ぎ定期的な情報発信を行うとともに、HPでの情報発信のニーズや、必要性を検討していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 神戸市立のぼら学園

公表日 2025年 2月 14日

利用児童数 64

回収数 51

	チェック項目	はい				どちらともいえない				いいえ				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	50	1	0	0	走れるスペースがたくさんあり、子どもたちがとてもリラックスしている 活動内容に合わせたスペースが確保されている 部屋も外も広々している のびのびできる子どもが走っても危なくないスペースがきちんと確保されている	引き続き、適切なスペースを確保するとともに、使い方の工夫を行い、安全確保を徹底する。								
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	50	1	0	0	職員が足りないところがないようにヘルプの先生がしっかりした補助の先生が各クラス2~3人入り支援してもらえ いつも2名以上の先生が見守ってくれている たくさんいるので安心	引き続き、適切な職員配置に努める。								
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	48	1	0	2	段差がないよう配慮されている 視覚でわかるよう、絵で示されている視覚的に分かりやすく 絵カードなど提示されている 絵で覚えられるので子どもは覚えやすい	引き続き、適切な環境整備に努めるとともに、より使いやすい施設となるような工夫を行う。								
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	49	2	0	0	職員が毎日清潔にしている、子どもの過ごしやすい空間を提供している いつも清潔 いつもピカピカな部屋で明るい	引き続き、清掃および整理整頓に努めるとともに、こどもが活動しやすい空間となるような工夫を行う。								
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	50	1	0	0	とてもありがたい 子どもの行動をしっかり見守り個性を大事に療育してくれている 一人一人に合わせて支援してくれる特性に合わせた関わりかたを考 えてくれる 月2回のOT・STでは少ないと思う。普段の療育でOT、STが受けら れる機会があればもっといい 個性を大事にしてくれるので、本人も気持ちのクールダウンがしや すい 特性を十分理解して接してくれている	引き続き、一人ひとりのこどもの特性等に応じた適切な支援に努める。								
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。														
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	49	2	0	0	行事が少なすぎる上に中止になることが多い 無理なく子どものペースに合わせて作成されている 子どもの状況と保護者の要望をしっかりと聞いて計画を立ててくれて いる 課題を見極めて具体的な提案をしてきている 懇談でニーズに合った計画を立てて貰えている 自立に向けてわかりやすくまとめている	引き続き、適切なアセスメントに基づいた支援計画の作成に努める。								
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	50	0	0	1	それぞれのニーズを踏まえ、細かく設定してくれている 職員との対話や子どもの出来ることを尊重して支援内容を しっかりと設定してくれている	引き続き、児童発達支援ガイドラインで示す支援内容から、一人ひとりのこどもの特性に応じた支援に必要な項目を適切に選択し、具体的な支援内容の設定に努める。								
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	49	1	0	1	心に残る、思い出になるような行事が少なすぎる 児童発達支援をもとに子どもの成長を促してくれている 懇談で現状を伝えて頂けて分かりやすい 入園したころに掲げていた目標がほぼ達成されている	引き続き、保護者と職員間で情報共有を行いながら、支援計画に沿った適切な支援を行う。								
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	47	2	0	2	みんながいろいろな形で参加できるよう、工夫されたプログラ ムが設定されている 活動がマンネリ化しないように、工夫してプログラムを組ん でいる	引き続き、こどもの状況に応じて、新たな活動プログラムを取り入れ、内容が固定化しないように工夫する。								
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	32	6	3	10	こども園のお友達と交流する機会がある 他園との交流のおかげでコミュニケーションの楽しさを学べている 近隣の幼稚園との交流を通して子どもに刺激を与えてくれている 地域の幼稚園との交流、公立の幼稚園で園児が減っており交流とい う意味では難しくなっていると思う 無理にしなくていいと思う	引き続き、認定こども園や通所事業所等とのこどもたちの交流を行う。								
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	50	1	0	0	入園の際しっかりと説明してくれた 説明会の際に利用に関する注意点を説明がしっかりあった	引き続き、運営規程、利用者負担等について、利用者への丁寧でわかりやすい説明に努める。									
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	50	1	0	0	懇談の機会に丁寧に説明があった 職員から支援内容の説明をしっかりと受けている	引き続き、支援計画の内容について、利用者への丁寧で分かりやすい説明に努める。									
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	44	1	2	4	保護者が参加できる勉強会がある 毎年楽しみにしている 歯磨きの研修は動画が保育参観の時にしてもらえると嬉しい ペアレントトレーニング、興味がある	引き続き、支援の充実に努めるとともに、支援が伝わりやすい工夫を行っている。									

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	50	1	0	0	懇談や送迎の際に情報共有してくれる 何かあると電話で教えてくれる 連絡ノートで様子を分かりやすく伝えてくれている 連絡ノートで情報共有できている 連絡帳にたくさん書いてくれて楽しみにしている 連絡帳だけでなく口頭や電話でも逐一伝えてくれる	引き続き、こどもの発達状況等、保護者との共通理解が徹底できるように努める。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	51	1	0	0	半年に一回の面談やクラス会で話し合いの場がある 先生方はいつも親身に聞いてくれ、助けられている 家庭訪問や懇談を通して定期的に助言してくれる とても相談にのってもらって出来るが増えた	引き続き、保護者からの相談に対して、適切な対応と必要な助言の実施に努める。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	49	2	0	0	送迎時や懇談の時に共有してくれ安心できる 小さな悩み事も共感してくれ安心できる 親とは違う目線で子どもたちを見てくれ、勉強になる	引き続き、保護者からの相談等に対して、適切な対応と必要な助言の実施に努める。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	37	4	2	8	カーニバルで毎年楽しく過ごしており、感謝している 保護者同士の交流が盛んでクラス会の開催もたくさんあり支援を頂いている 去年と比べて少なくなった。もう少し多く、もしくは参加しなくてもOK、全員揃わなくても園の様子や保護者と交流したい 兄弟参加を可能にしている 体験保育のs時に保護者の交流の機会を設けてくれ、情報交換が出来ている 保護者同士が会う機会が多くはない	引き続き、保護者同士の交流機会を設けるとともに、きょうだい同伴の行事によりきょうだい同士の交流機会を設ける。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	47	4	0	0	相談質問をした際には丁寧に対応してくれる 園ごとを相談した時、すぐに対応してくれた 保護者からの相談を常に聞いてくれる姿勢を感じ、信頼できる 相談や質問をした際にすぐに確認し、返答がある	引き続き、利用者からの相談等に対し、迅速かつ適切な対応に努める。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	49	2	0	0	子どもの1日の頑張りを連絡帳や口頭でしっかりと伝えてくれる 連絡ノートで忙しい中伝達してくれている	引き続き、こどもの障害特性に応じた適切な支援に努める。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	44	3	0	4	れんらくーと配布物で日々の行動や行事をしっかりと知れる たくさん出来たことや、頑張ったことを教えてくれる メールでお知らせが届き、予定表などを発信してくれている 毎月配布される「クラスだより」で毎月の取り組み内容を知ることが出来る	引き続き、活動概要や行事予定等について情報発信を行っていく。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	49	0	0	2	職員間で管理していると感じる。	引き続き、個人情報の適切な取り扱いを徹底するとともに、利用者へのわかりやすい説明に努める。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	46	0	0	5	子どもから話を聞くことがあるので、助かっている あらゆることを想定して訓練を行ったり、事業所を周知する努力をしている	引き続き、緊急時等の対応については随時見直しを行い、保護者への周知徹底を図るとともに、発生を想定した訓練を実施する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	47	0	0	4	月に1回訓練をしてくれている 予定表に書いている 定期的に避難訓練をしている	引き続き、定期的に必要な訓練を実施し、内容等について保護者に周知する。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	48	0	0	3	常に先生がたくさんいるので安心 子どもの安全を確保することを一番に考えてくれている	引き続き、職員間での十分な情報共有のもと、安全を確保した上で支援を行う。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	47	1	0	3	電話などで伝えてくれる 子どもが怪我をしたら小さいことでもすぐに連絡をくれる すぐに電話連絡をくれる すぐに電話連絡やノートで共有してくれる まだ経験がないのでわからない	事故等が発生した際には、こどもへの対応及び保護者への説明を迅速に行うとともに、職員間で共有し、事故の発生防止に努める。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	50	1	0	0	先生の名前を嬉しそうに話すのでとても安心して楽しめている 行き渋りもなく、安心して表情をしている ニコニコしてバスを待っているのを楽しんでいると思う 毎日楽しそうに通っている 保育体験と一緒に過ごした時、安心感を持っているのがよかったです 毎日楽しんで通所している 毎日笑顔で園バスに乗っていく	引き続き、一人ひとりのこどもの特性に応じた支援を行い、こどもが安心感をもって通所できるように努める。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	48	1	0	2	日々の出来事を嬉しそうに話してくれる 子どもの1日のルーティンが通所することになっている 毎日楽しんで通っている いつも笑顔で通っている	引き続き、支援内容を工夫し、こどもが楽しく通所できるように努める。
	29	事業所の支援に満足していますか。	49	2	0	0	とてもよく見てくれていると感じる 満足している しっかりとした対応をしてくれるので信頼して任せている 先生方の子どもたちへの愛情が伝わり安心している	引き続き、支援について内容の検証、改善に努める。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	神戸市立のぼら学園	公表日	2025年 2月 14日
------	-----------	-----	--------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		必要なスペースを確保している。	引き続き、適切なスペースを確保するとともに、使い方の工夫を行い、クラスやこどもの状況に合わせた空間を作れるようにする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切な職員配置を行っている。	引き続き、利用人数だけでなく、クラスやこどもの状況を見ながら、適切な職員配置に努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		バリアフリー構造であり、視覚支援など障害の特性に応じた環境整備を行っている	引き続き、環境整備に努めるとともに、より使いやすい施設となるよう生活空間を整え、こどもの状況により対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、清掃を行い、こどもが活動しやすい生活空間を確保している。	引き続き、清掃および整理整頓に努めるとともに、こどもが活動しやすい空間となるような工夫を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		空き部屋を有効利用して使用できるようにしている。	引き続き、適切なスペースを確保するとともに、使い方の工夫を行い、こどもの状況に合わせた空間を作れるようにする。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		会議などを通して、PDCAサイクルを行っている。	引き続き、業務改善を進めるためのPDCAサイクルを行う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を集約し、職員間で確認し、内容に応じて検討している。	引き続き、評価アンケート等での意見をもとに業務改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝終礼や面談等での意見について、内容に応じて検討している。	引き続き、職員が意見を述べやすいような機会を設け、必要に応じて業務改善につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は実施していない。	今後の検討課題とする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		施設内研修や外部施設への実習を実施するとともに、他団体が主催する研修を受講する機会を設けている。	引き続き、職員の資質向上を図るため、研修内容等を工夫する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	/	/	/	/
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		こどもと保護者のニーズ等を把握するために、アセスメントシートなどで十分なアセスメントを実施し、支援計画を作成している。	引き続き、適切なアセスメントに基づいた支援計画の作成に努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議を行い、検討、作成している。	引き続き、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる職員と検討、作成を行う。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画を確認できる状況にしている。	引き続き、児童発達支援計画を確認できる状況にしておき、必要に応じて口頭で伝える。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		支援等の記録や日々の記録等を基にこどもの状況を確認している。	引き続き、様々な方法でこどもの状況を確認していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		一人ひとりのこどもの特性に応じた支援項目を設定し、具体的な支援内容を記載した計画を作成している。	引き続き、児童発達支援ガイドラインで示す支援内容から、一人ひとりのこどもの特性に応じた支援に必要な項目を適切に選択し、具体的な支援内容の設定に努める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各職員が連携・情報共有して、こどもの特性や発達段階等に応じた活動プログラムを立案している。	引き続き、各職員が連携して、チーム全体での活動プログラムの立案に努める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		他施設の取り組みや研修等で紹介された事例なども参考にしながら、随時、新たな活動プログラムを取り入れている。	引き続き、こどもの状況に応じて、新たな活動プログラムを取り入れ、内容が固定化しないように工夫する。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人ひとりのこどもの特性に応じて、必要な個別活動および集団活動を取り入れた計画を作成している。	引き続き、一人ひとりのこどもの特性に応じた適切な支援計画の作成に努める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼やミーティングを通じて、日々の支援内容や職員の役割分担、個々のこどもに対する配慮事項等についての確認を行っている。	引き続き、職員間での十分な情報共有を行い、必要事項の確認を徹底する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼やミーティングを通じて、日々の支援内容の振り返りや個々のこどもの状況等について、必要な情報共有を行っている。	引き続き、職員間での十分な情報共有を行い、必要事項の確認を徹底する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容について適切に記録を作成し、随時、支援内容を検証するとともに、必要に応じて改善を行っている。	引き続き、日々の支援内容についての適切な記録、支援内容の検証、改善に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、こどもの状態を適切に把握したうえで、必要に応じて支援計画の内容を見直している。	引き続き、適切な時期にモニタリングを実施し、こどもの状況に応じて支援計画の見直しを行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必要に応じて関係職員が担当者会議などに参加している。	引き続き、関係機関との情報共有に努める。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて関係機関との連携を図り、支援を行う体制を整えている。	引き続き、関係機関との連携に努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて併行利用や移行に向けた支援を行い、保護者の同意を得たうえで、関係機関と、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	引き続き、併行利用や移行に向けた支援を行い、関係機関との情報共有と相互理解を図っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の同意を得たうえで、小学校や特別支援学校と、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	引き続き、小学校や特別支援学校との情報共有と相互理解を図っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		公開療育や、地域の障害児通所支援事業所等への見学、連携研修等を行うことで、地域全体の質の向上を図っている。	引き続き、他の障害児通所支援事業所等との連携に努める。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	○		施設内研修や外部施設への実習を実施するとともに、他団体が主催する研修を受講する機会を設けている。	引き続き、研修内容等を工夫しながら、職員の資質向上のための取り組みを行う。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○		地域自立支援協議会や子育て支援ネットワーク会議に参加している。	引き続き、地域自立支援協議会や子育て支援ネットワーク会議に参加する。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		近隣の認定こども園や障害児通所支援事業所との交流を行っている。また、就学児など個別に幼稚園交流を行っているこどももいる。	引き続き、地域の認定こども園等との交流で、地域の他のこどもと活動する機会を設ける。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、子どもの日々の状況や課題について、保護者との共有に努めている。	引き続き、こどもの発達状態や課題について、保護者との共通理解が徹底できるように努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者を対象とした研修や個別懇談を実施するほか、親子通園では日々の療育を通じて支援を行っている。	引き続き、保護者の対応力の向上を図るための支援の充実に努めるとともに、支援が伝わりやすい工夫を行っていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		入園説明会等で、説明を行っている。	引き続き、入園説明会等で、丁寧な説明を行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		懇談の機会を設け、アセスメントシートや振り返りシート等を基に、こどもや家族の意向を確認し、支援計画を作成している。	引き続き、支援計画を作成する際には、こどもや家族の意向を確認する機会を設ける。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画の趣旨や支援内容について、保護者が十分理解できるように説明を行い同意を得ている。	引き続き、支援計画の内容について、利用者への丁寧で分かりやすい説明に努める。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に個別懇談を実施するほか、連絡帳の活用等により、必要な助言と支援を行っている。	引き続き、保護者からの相談に対して、適切な対応と必要な助言に努める。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		クラス単位で保護者会を実施するなど連携を支援している。きょうだい支援について、クラスごとにカーニバル、肢体不自由児クラスは兄弟デイも実施している。	引き続き、保護者同士やきょうだいが交流できる機会を設ける。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		重要事項説明の際など、苦情受付窓口について保護者に説明するとともに、相談や申入れがあった場合は迅速に対応している。	引き続き、保護者からの相談や申入れについて、迅速かつ適切に対応する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		日々、連絡帳を活用するとともに、毎月、行事予定をお知らせしている。	引き続き、活動概要や連絡体制等について子どもや保護者に情報発信を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		全職員に対して、個人情報の取扱いに関する研修を実施し、日々の業務における適切な取扱いを徹底している。	引き続き、個人情報の取扱いに十分留意するとともに、重要事項説明の際など、個人情報の取扱いについて説明する。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援など障害の特性に応じた意思疎通を行っている。	引き続き、適切な方法での意思疎通や情報伝達の配慮に努める。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域のボランティアを受け入れ、子どもの支援補助として関わっていただいている。	引き続き、地域と連携し、開かれた事業運営ができるように努める。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、重要事項説明書や入園のしおり等で職員や家族等に周知し、発生を想定した訓練を実施している。	緊急時等の対応については、随時見直しを行い、適切な対応についての周知徹底を図る。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を作成し、定期的に避難訓練等を実施している。	引き続き、定期的に必要な訓練を実施し、目的・内容について保護者に周知するとともに、災害発生に備えた取り組みを行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		入園前の提出資料や入園後の保護者からの聞き取りにより、子どもの健康面について確認、周知している。	引き続き、連絡帳などで健康面の確認を行っていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのある子どもに対しては、保護者からの聞き取りと医師の指示に基づいて、適切な対応を行っている。	引き続き、子どものアレルギー状況についての十分な把握と、医師の指示に基づいた適切な対応に努める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練等を行い、十分な安全管理の中で支援を行っている。	引き続き、研修や訓練等を行い、安全管理が十分された中で支援に努める。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		連絡帳を活用し、取組内容を家族等へ周知している。	引き続き、子どもの安全確保に関しての取組内容について、連絡帳等で周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		該当する事例が発生した場合は、ヒヤリハット報告書を作成し、事業所内で共有を徹底し、再発防止に努めている。	引き続き、ヒヤリハット事例の共有を徹底し、事故の発生防止に努める。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全職員に対し虐待防止研修を実施し、神戸市立児童発達支援センターの園長による虐待防止委員会を開催し、情報共有を図っている。	引き続き、全職員に対して虐待防止研修を実施し、意識向上を図る。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ず行う場合は組織的な決定に基づくものとし、保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で支援計画に記載し同意を得ている。	引き続き、適切な取り扱いを行う。	